

2021年度 調査結果（2020年4月発行）

## 海外留学生のキャリア意識と就職活動状況

国内外を問わずグローバルに活躍できる人財の採用を強化する企業が増える中、語学力や異文化理解力を持つ留学経験者の採用ニーズはますます高まっている。ディスコでは海外の大学で学ぶ正規留学生や交換・派遣留学生を対象に、職業観や就職活動に関する調査を実施した。比較可能なものに関しては国内学生（キャリアス就活・学生モニター）の調査結果を引用しながら、その特徴を分析したい。

### 【主な調査内容】

1. 現在の英語力	.....	P 2
2. 就職したい理由	.....	P 2
3. 海外での勤務希望と海外で働きたい理由	.....	P 3
4. 志望業界	.....	P 4
5. 志望職種	.....	P 5
6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点	.....	P 6
7. 新卒1年目の最低希望年収	.....	P 7
8. ベンチャー企業への関心	.....	P 7
9. 就職活動の情報源	.....	P 8
10. 企業研究をする上で知りたい情報	.....	P 8
11. インターンシップの経験	.....	P 9
12. 動画選考、WEB面接の受験状況	.....	P 9
13. 企業に評価してもらいたいこと	.....	P 10
14. 留学前に不安だったこと／実際に困ったこと	.....	P 11
15. 留学費用	.....	P 11
16. 留学をした感想	.....	P 12

### 《調査概要》

調査対象：CFN (www.careerforum.net) に登録している【日本人留学生】のうち、卒業時期が2019年5月以降の者 9,956人

調査方法：インターネット調査法

調査期間：2020年2月19日～3月8日

回答者の属性 単位：人

留学形態	全体	文系	理系
正規留学	211	153	58
交換・派遣留学	289	265	24
語学留学	38	36	2
その他	20	14	6
合計	558	468	90

留学先地域・国	全体
北米	224
英国	99
その他ヨーロッパ	110
オセアニア	33
アジア	72
その他	20
合計	558

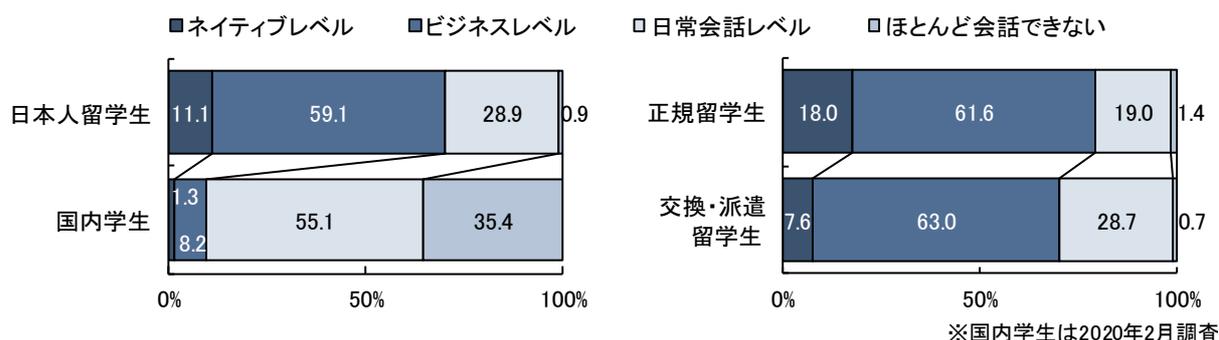
※国内学生の調査結果は「キャリアス就活 学生モニター調査」より

### 1. 現在の英語力

まず、現在の英語力について尋ねた。「ネイティブレベル」が11.1%、「ビジネスレベル」が59.1%と、ビジネスで英語を使うことができる留学生は7割に上る(計70.2%)。国内の大学・大学院で学ぶ学生(以下、国内学生)ではビジネスレベル以上は1割程度(計9.5%)にとどまり、留学生の英語力が国内学生と比べて圧倒的に高いことがわかる。

これを留学形態別に比較すると、ビジネスレベル以上は正規留学生で79.6%、交換・派遣留学生で70.6%であり、海外生活が長い分、正規留学生の方がやや英語力が高い。

現在の英語力



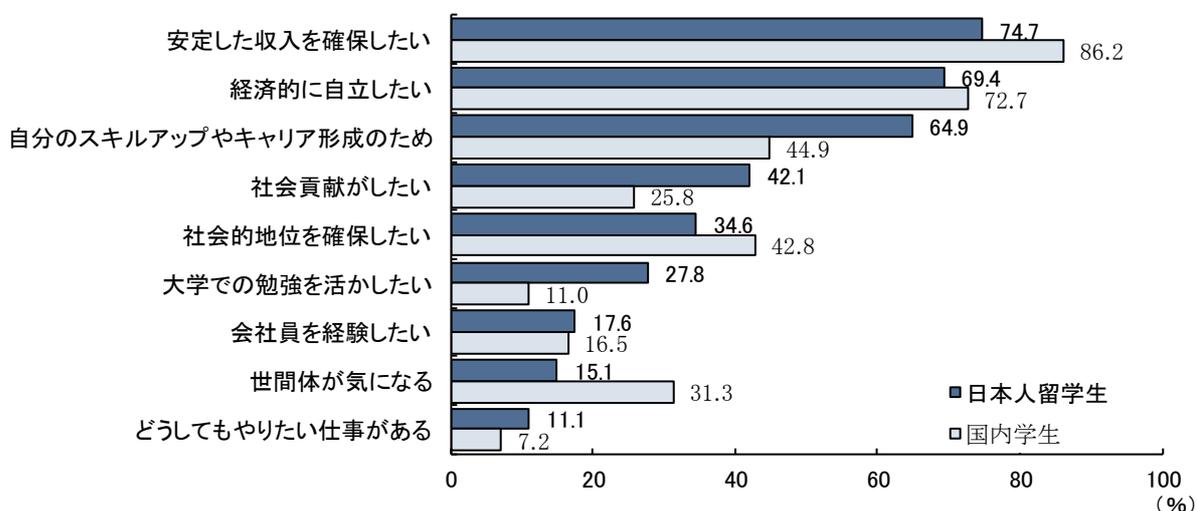
### 2. 就職したい理由

就職したい理由を尋ね、国内学生と比較した。留学生は「安定した収入を確保したい」、「経済的に自立したい」、「自分のスキルアップやキャリア形成のため」の順で高い。国内学生も上位3位は同じ項目だが、ポイントに差が見られる。「安定した収入を確保したい」は国内学生が10ポイント以上高く、「自分のスキルアップやキャリア形成のため」は留学生のほうが20ポイント高い。

4位以下を見ると、留学生では「社会貢献がしたい」や「大学での勉強を活かしたい」が国内学生を上回り、国内学生は「社会的地位を確保したい」、「世間体が気になる」が留学生より高い。

留学生・国内学生とも、就職に経済的な自立や収入を求める点は同じだが、スキルアップや社会貢献を重視する留学生と、世間体や安定に重きを置く国内学生の間で、意識の差が出ている。

就職したい理由



※複数回答

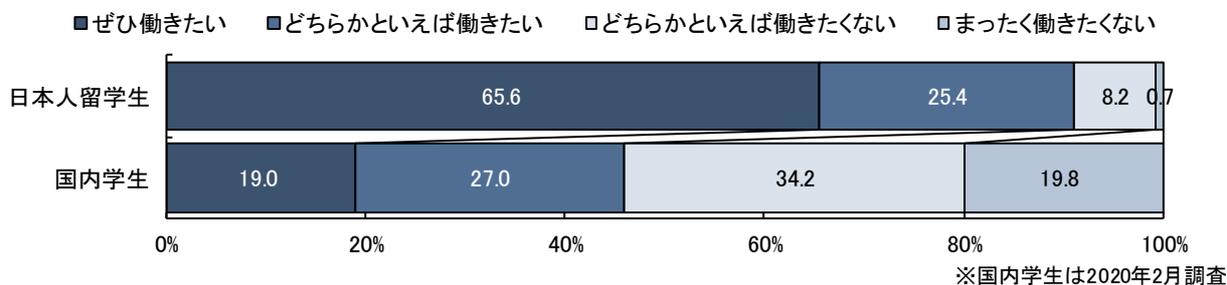
### 3. 海外での勤務希望と海外で働きたい理由

日本国外（海外）での勤務について、留学生は「ぜひ働きたい」が6割強に上る（65.6%）。「どちらかといえば働きたい」（25.4%）も含めると9割を超え（計91.0%）、海外勤務への意欲は極めて高い。一方、国内学生はそれぞれ19.0%、27.0%で、海外勤務希望者は過半数に満たない。

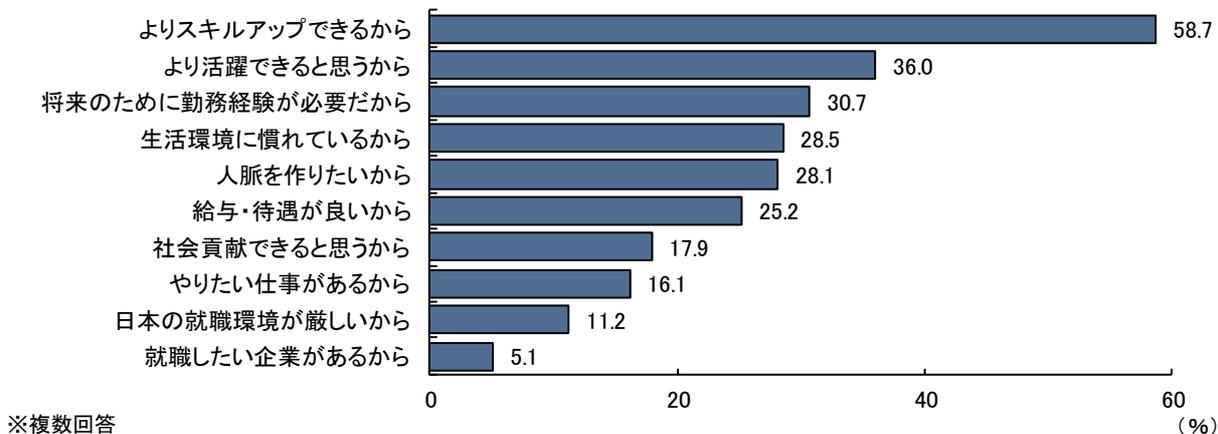
留学生が海外で働きたい理由を見ると、「よりスキルアップできるから」が58.7%と突出して高く、前ページで見たように、留学生は就職をスキル獲得の場と捉える傾向が強い様子がここにも表れている。

働いてみたい国や地域としては「ヨーロッパ」が最も多く（61.2%）、「北米」（57.1%）が続くなど欧米の人気の高いが、一方で「東南アジア」も4割に達し（40.0%）、経済成長国でキャリアを積みたいと考える留学生も少なくない。

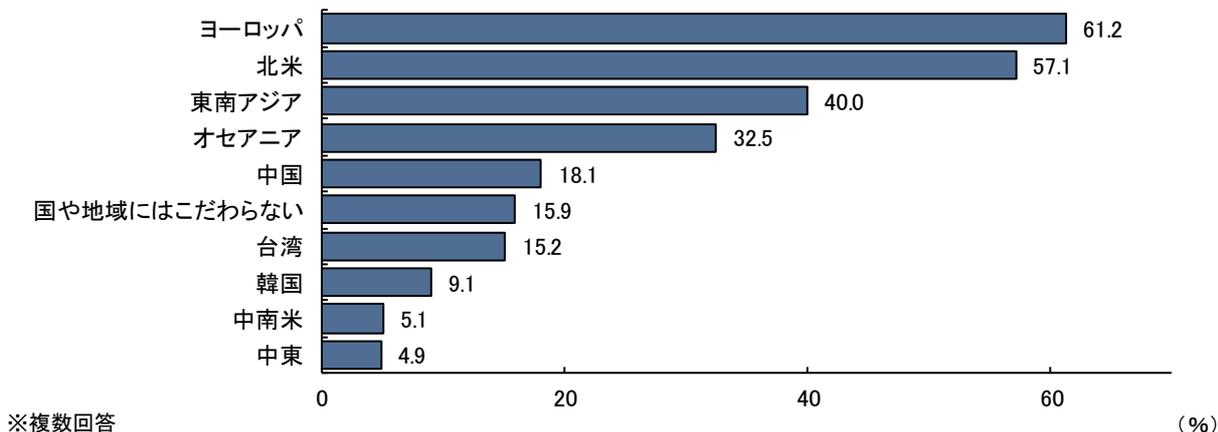
日本国外での勤務希望



日本国外で働きたい理由(上位10位)



将来の希望勤務国・地域(上位10位)



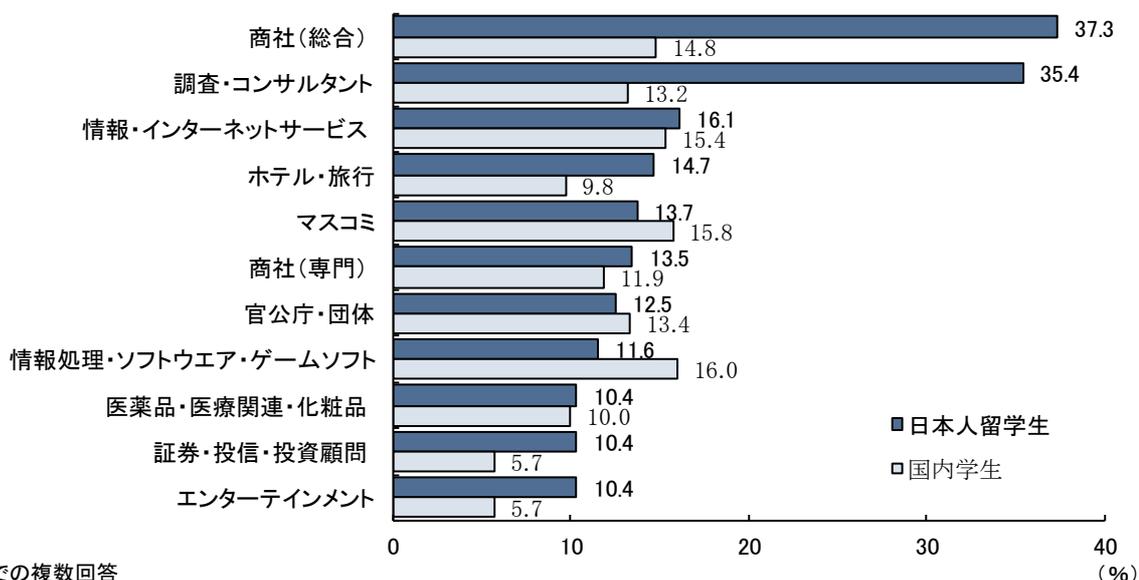
#### 4. 志望業界

志望する業界について、40業界から5つまで選んでもらった。

まず文系を見ると、留学生は「商社（総合）」（37.3%）と「調査・コンサルタント」（35.4%）の2業界が突出している。一方、国内学生は「情報処理・ソフトウェア」（16.0%）が最多ではあるが、全体的に分散している。

理系を見ると、留学生は「情報処理・ソフトウェア」（30.1%）、「調査・コンサルタント」（26.5%）、「医薬品・医療関連・化粧品」（19.3%）の順に多い。ITやメーカーが高いのは国内学生も同様だが、留学生は文系でも人気の「調査・コンサルタント」や「商社（総合）」も高いのが特徴的。

志望業界(上位10位まで)【文系】

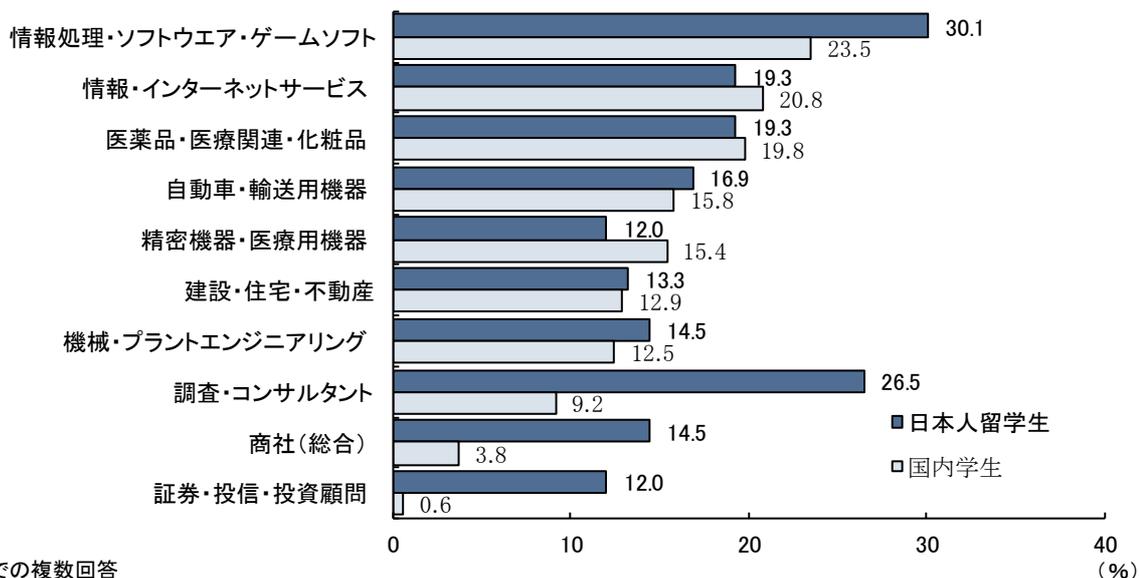


※5つまでの複数回答

※日本人留学生の上位10位まで

※国内学生は2020年3月調査

志望業界(上位10位まで)【理系】



※5つまでの複数回答

※日本人留学生の上位10位まで

※国内学生は2020年3月調査

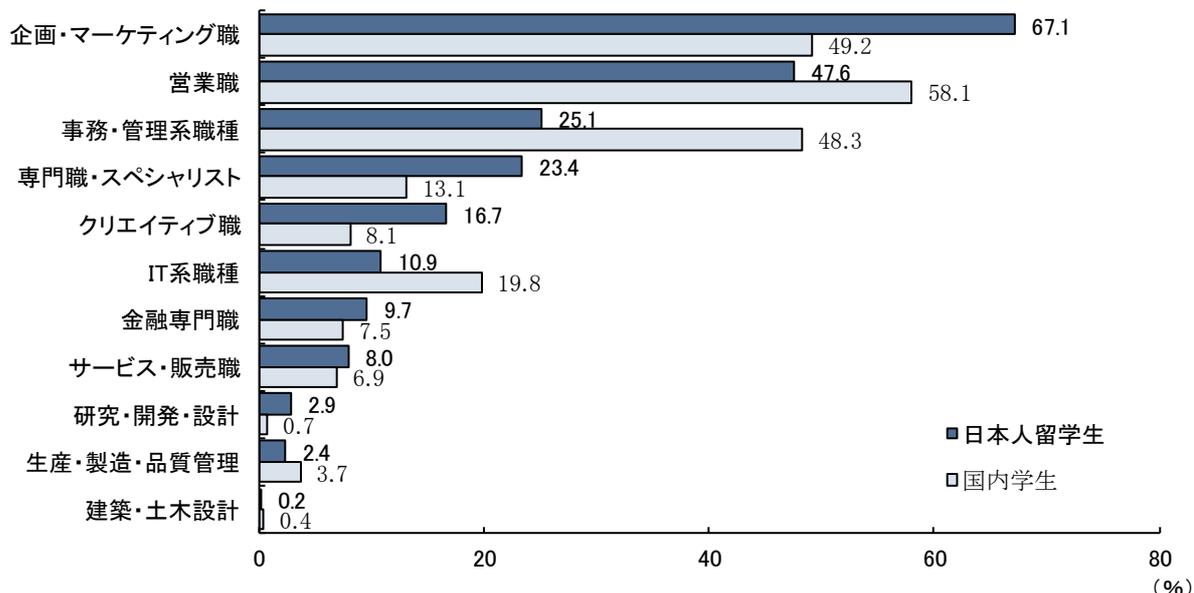
### 5. 志望職種

志望する職種について、11職種から3つまで選んでもらった。

文系を見ると、留学生は「企画・マーケティング職」が7割近くに上り（67.1%）、続く「営業職」（47.6%）の2職種に集中した。国内学生では、この2職種に加えて「事務・管理系職種」も5割近いが、留学生では25.1%にとどまる。

理系では、留学生・国内学生ともに「研究・開発・設計」、「IT系職種」といった技術系職種の人気が高い。加えて、留学生では「企画・マーケティング職」が高く、国内学生では「生産・製造・品質管理」が高いなど、志向の違いが表れている。

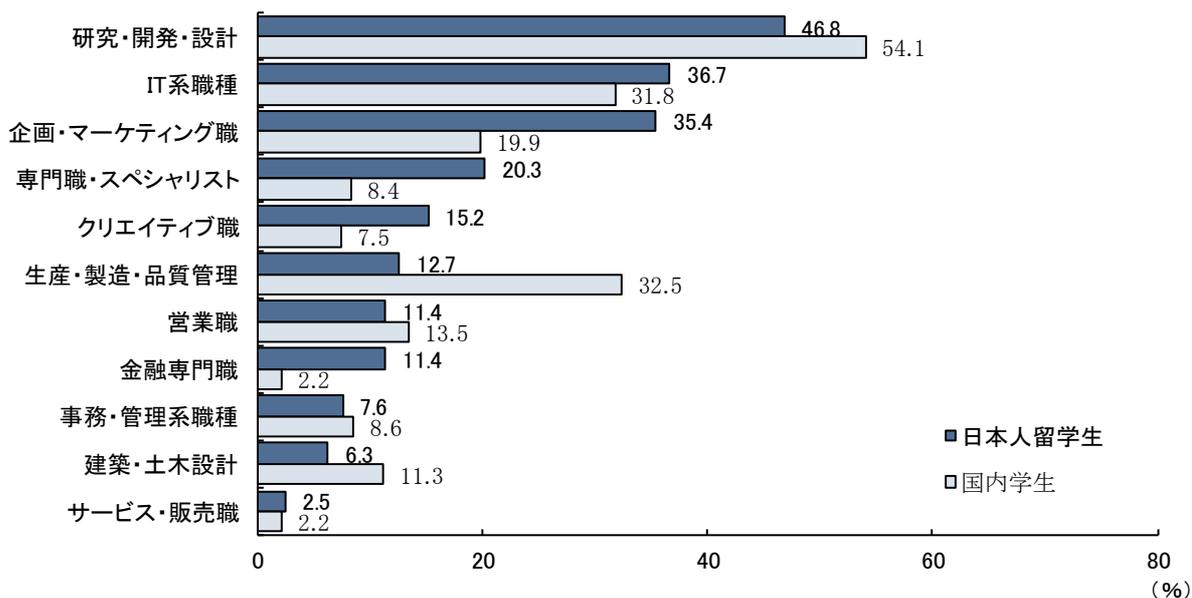
志望職種【文系】



※3つまでの複数回答

※国内学生は2020年3月調査

志望職種【理系】



※3つまでの複数回答

※国内学生は2020年3月調査

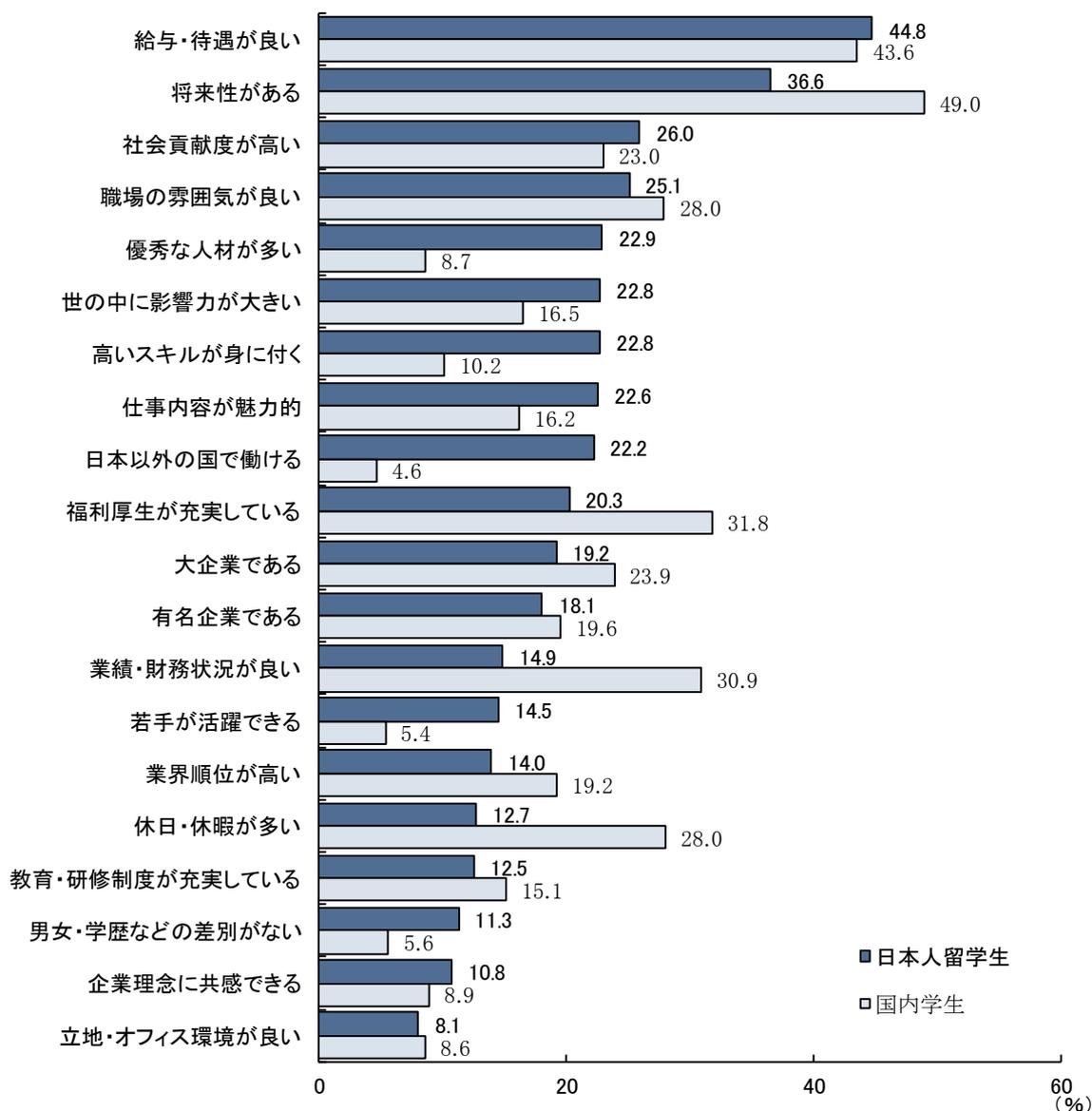
## 6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先企業を選ぶ際に重視する点は、留学生・国内学生とも「給与・待遇が良い」、「将来性がある」が上位2位だが、下位の項目で差が大きい。

「優秀な人材が多い」、「高いスキルが身に付く」、「日本以外の国で働ける」といった項目は留学生の方がポイントが高く、仕事内容やスキルアップを重視する姿勢が表れている。一方、「福利厚生が充実している」、「業績・財務状況が良い」、「休日・休暇が多い」などの会社の安定性や働き方・制度に関する項目については国内学生の方が大きく上回っている。

全体的に、国内学生は会社軸で見ており、「就社」の側面が強いのに対し、留学生はスキルの獲得など仕事軸で企業を見ている点が特徴的だ。

就職先企業を選ぶ際に重視する点



※5つまでの複数回答

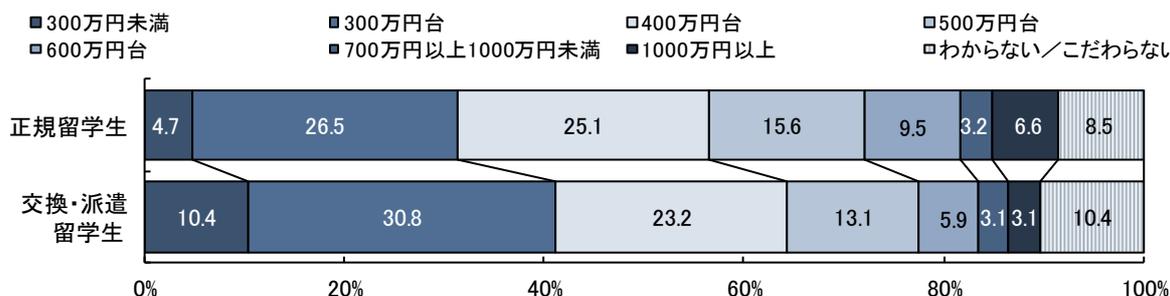
※日本人留学生の上位20位まで

※国内学生は2020年1月調査

### 7. 新卒1年目の最低希望年収

新卒1年目の年収として、最低このくらい欲しいという目安を尋ねた。正規留学生、交換・派遣留学生ともに「300万円台」が最も多く、それぞれ3割前後が選んだ。次いで「400万円台」が、2割台で続く。一方、700万円以上の回答が、正規留学生で合計9.8%、交換・派遣留学生で合計6.2%あり、わずかではあるが高い年収を求める学生も見られる。

新卒1年目の最低希望年収

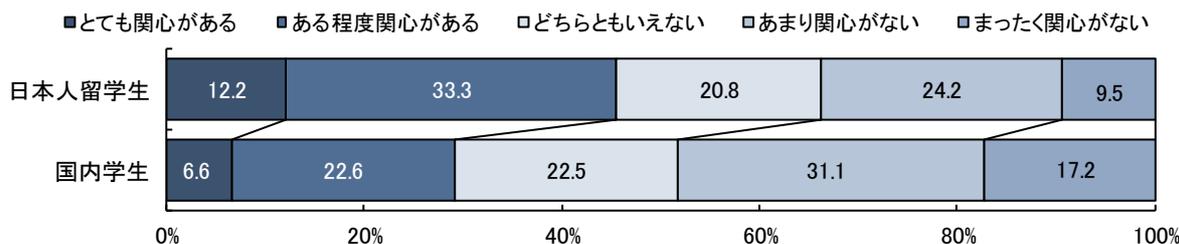


### 8. ベンチャー企業への関心

留学生と国内学生の双方にベンチャー企業への就職意向を尋ねた。留学生は「とても関心がある」(12.2%)、「ある程度関心がある」(33.3%)を合わせて4割強(計45.5%)がベンチャー企業への就職に関心があると回答した。これに対し、国内学生では3割にとどまる(計29.2%)。

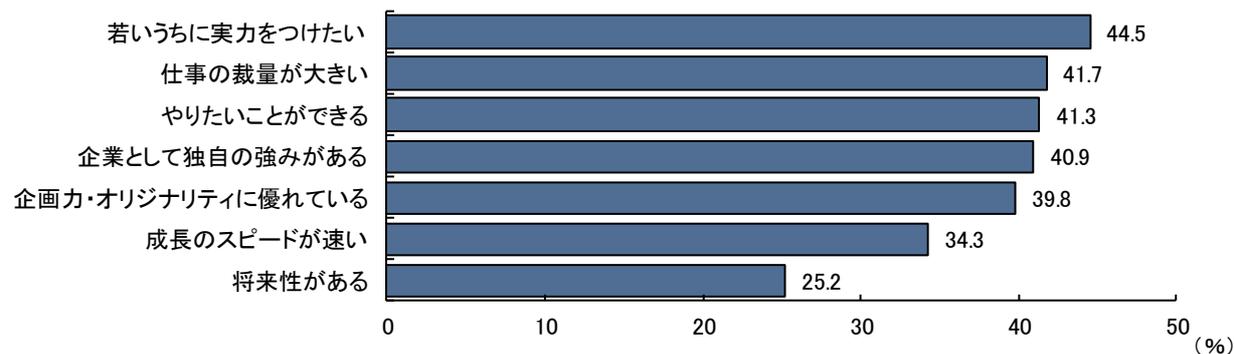
留学生がベンチャー企業に関心を持っている理由としては、「若いうちに実力をつけたい」や「仕事の裁量が大きい」、「やりたいことができる」など、個人の成長に繋がるような項目が上位に挙げられた。就職をスキルアップや経験を積む場と考える留学生にとって、早くから裁量を持って仕事に取り組みそうなベンチャー企業の環境は魅力的に映るようだ。

ベンチャー企業への就職関心度



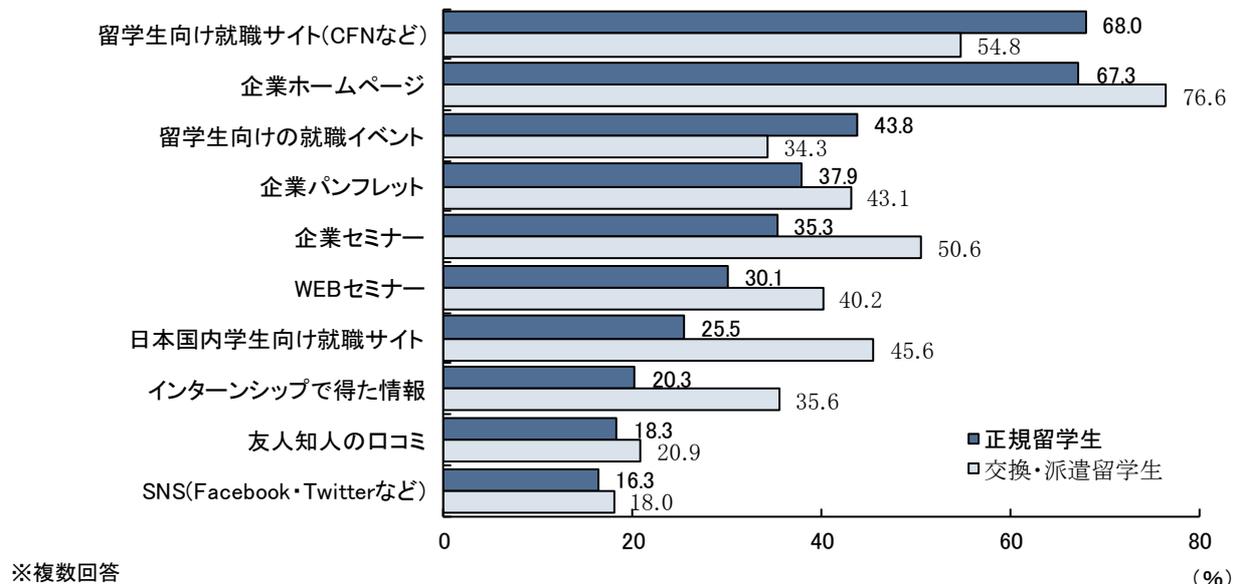
※国内学生は2020年1月調査

ベンチャー企業に関心を持っている理由(上位7項目)



就職活動の情報源を尋ね、正規留学生と交換・派遣留学生とを比較した。正規留学生の情報収集は「留学生向け就職サイト」(68.0%)と「企業ホームページ」(67.3%)に集中している。一方、交換・派遣留学生は、「日本国内学生向け就職サイト」(45.6%)も半数近くの学生が選んでおり、国内学生向け就職サービスも併用していることが見て取れる。

### 就職活動の情報源(上位10項目)

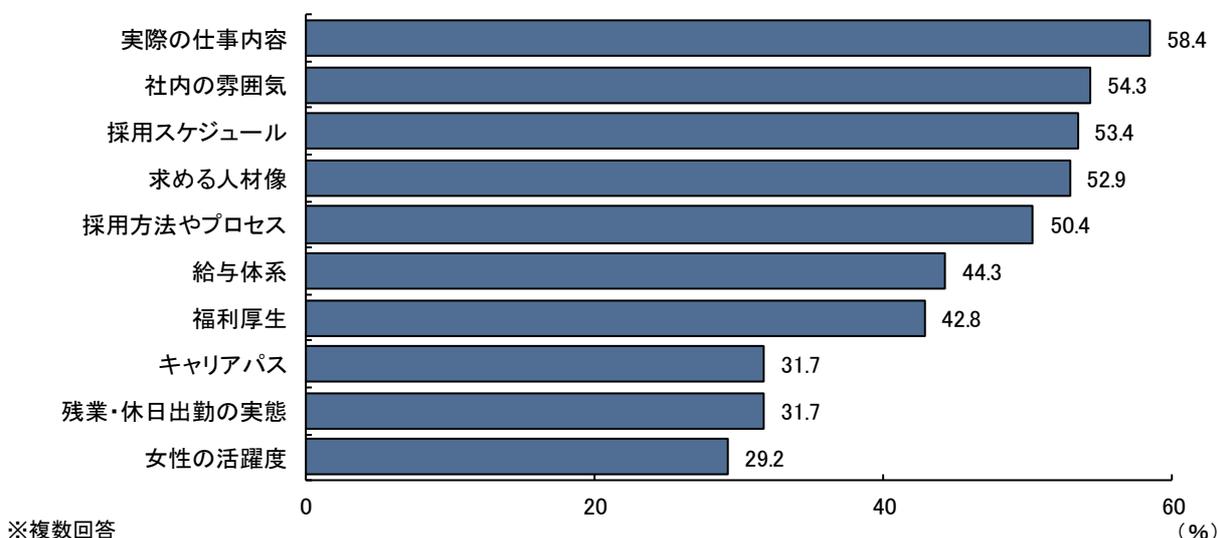


### 10. 企業研究をする上で知りたい情報

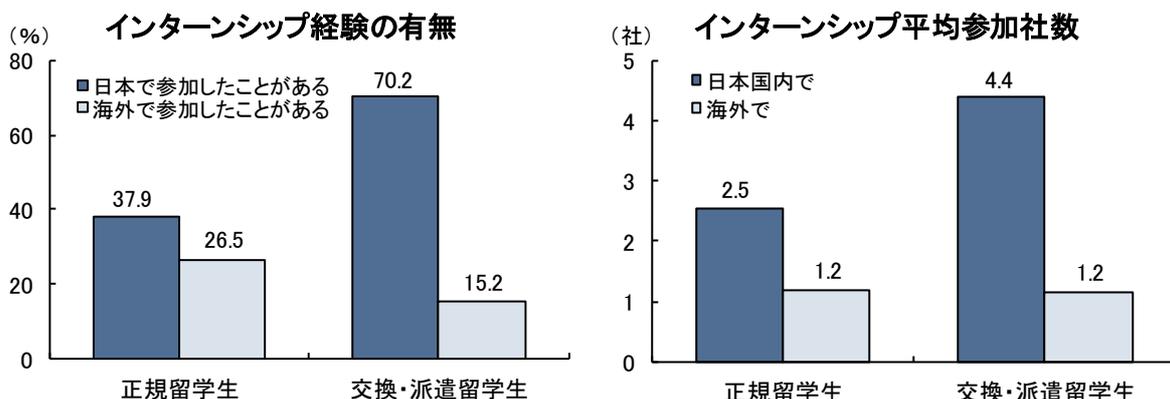
企業研究をする上で知りたい(知りたかった)情報について尋ねた。「実際の仕事内容」(58.4%)が最も高く、次いで「社内の雰囲気」(54.3%)、「採用スケジュール」(53.4%)、「求める人材像」(52.9%)、「採用方法やプロセス」(50.4%)など、多くの項目が半数を超えた。

地理的・時間的制約が大きく、企業セミナーやOB・OG訪問などの情報獲得の機会が限られる留学生にとって、社内の雰囲気や実際の仕事内容など、インターネットだけでは掴みにくい生の情報を得ることが就職活動の課題となっている様子がうかがえる。

### 企業研究をする上で知りたい情報(上位10項目)



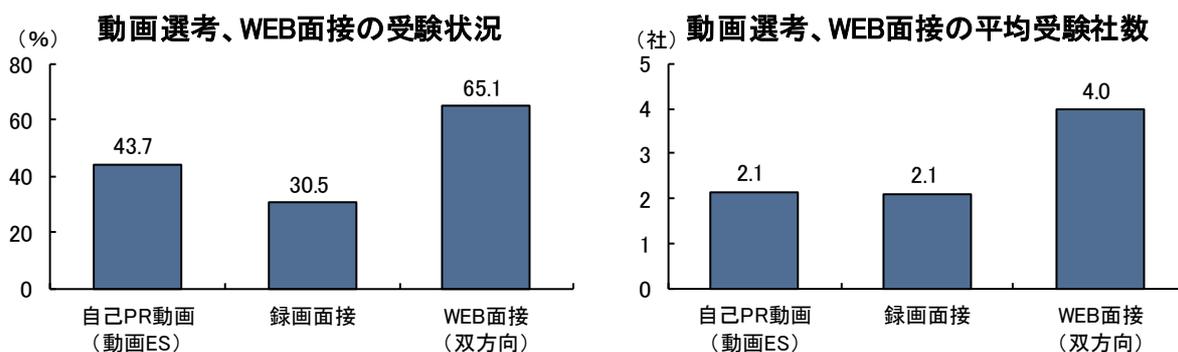
インターンシップの経験を、日本国内と海外とに分けて尋ねた。日本でのインターンシップ経験者は、交換・派遣留学生では7割に上る（70.2%）。正規留学生でも約4割（37.9%）と、夏季長期休暇などに帰国して参加する人も少なくない。インターンシップの参加社数も、日本国内での参加が海外での社数を大きく上回り、特に、交換・派遣留学生では平均4.4社に上る。日本国内のインターンシップは、近年短期開催のものを中心に増加しているが、留学生も就職活動準備として積極的に活用している様子が見て取れる。



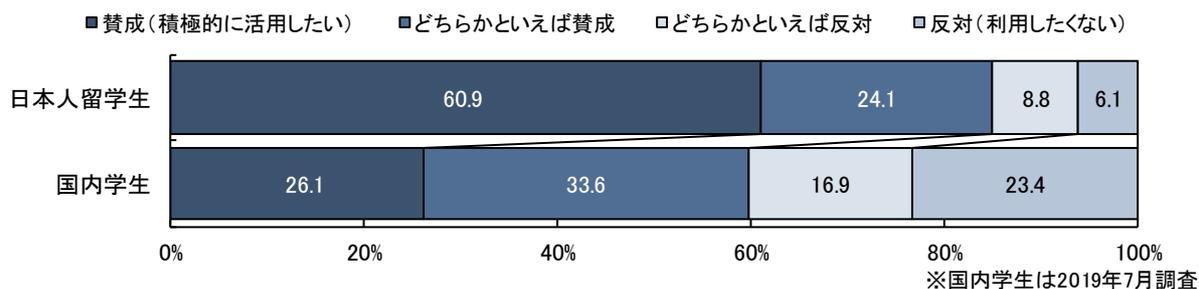
## 12. 動画選考、WEB面接の受験状況

動画選考やWEB面接の経験について尋ねた。最も経験率が高いのは「WEB面接（双方向）」で6割強に上る（65.1%）。「自己PR動画」「録画面接」の経験者も少なくない。地理的制約の大きい留学生を採用する上で、多くの企業がオンライン選考を導入していることがうかがえる。

選考においてWEB面接を利用することに「賛成（積極的に活用したい）」は6割（60.9%）。「どちらかといえば賛成」（24.1%）と合わせると8割を超える（計85.0%）。国内学生（計59.7%）と比べると20ポイント以上高く、WEB面接に肯定的な留学生が多いことがわかる。



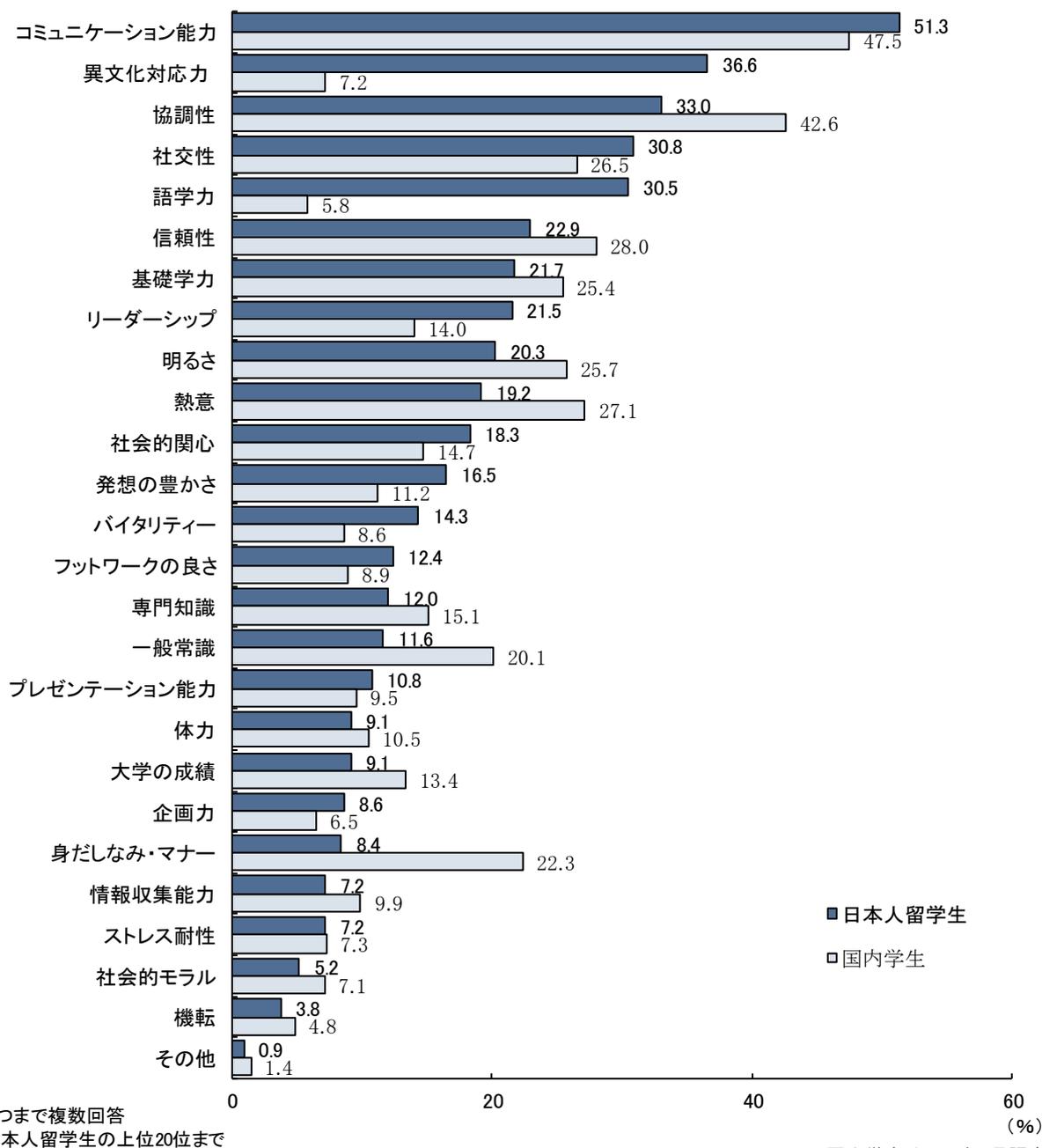
### WEB面接（双方向）対応への賛否



選考にあたって企業に評価してもらいたいことを尋ねたところ、留学生と国内学生で違いが見られた。留学生が評価してもらいたいこととして最も多いのは、「コミュニケーション能力」（51.3%）で、「異文化対応力」（36.6%）が続く。また、「社交性」「語学力」「リーダーシップ」なども国内学生に比べてポイントが高く、海外留学経験を通じて向上させた能力や資質を評価してもらいたいと考える学生が多いことがうかがえる。

一方、国内学生は「協調性」「信頼性」「明るさ」「熱意」などのポイントが留学生よりも高く、組織のなかで円滑に業務を遂行できる能力をアピールしたいようだ。

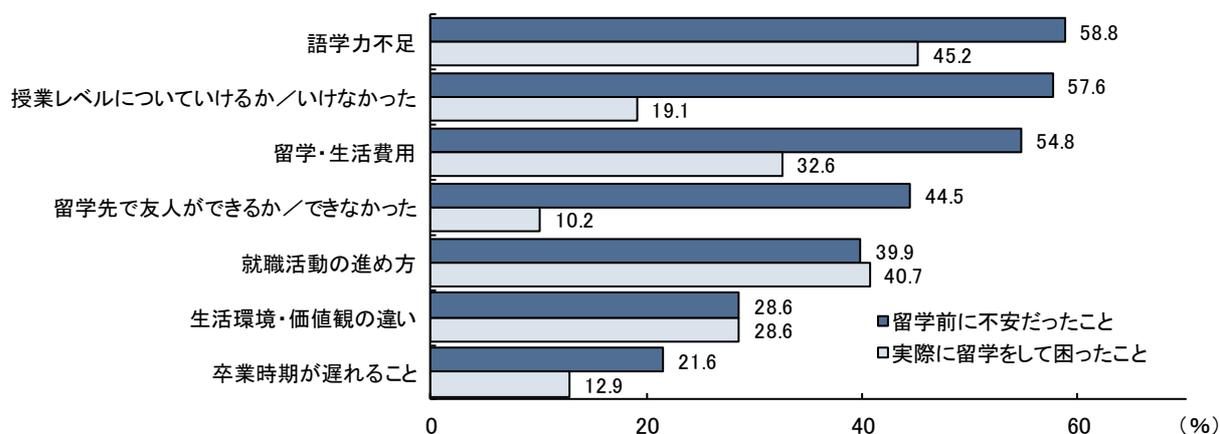
### 企業に評価してもらいたいこと



### 14. 留学前に不安だったこと／実際に困ったこと

留学前に不安だったことを尋ね、実際に留学をして困ったことと比較した。留学前は、「語学力不足」(58.8%)、「授業レベル」(57.6%)、「留学・生活費用」(54.8%)に不安を感じている学生が多かったが、留学後はいずれもポイントを大きく下げている。これに対し、「就職活動の進め方」については、留学前が39.9%で、留学してからは40.7%とやや上昇しており、多くの留学生が就職活動に頭を悩ませていることが読み取れる。なお、就職活動で困った例としては、学事スケジュールの違いにより、日本の就活時期と合わない点や、学業との両立の難しさ、就職に関する情報不足を挙げる声が多かった。

留学前に不安だったこと／実際に留学をして困ったこと(上位7項目)



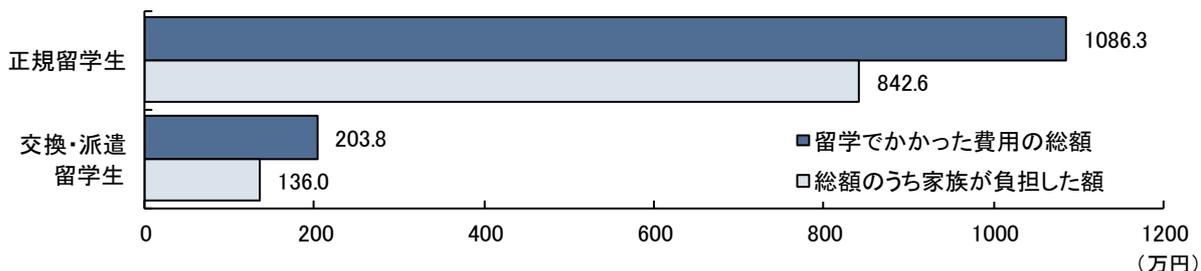
#### ■就職活動の進め方で困ったこと具体例

- 気になる日本企業のセミナーやイベントの開催時期がこちらの休暇と合わない。 <正規留学>
- 就職活動と勉強の両立の難しさをとても感じています。日本の大学生に比べると、就職活動ができていないと実感しました。 <正規留学>
- インターンシップに参加できず就職活動に出遅れたと感じた。 <交換・派遣留学>
- 就職活動に関する情報があまり入ってこないため、動きが遅くなってしまった。帰国後に1つ下の学年と改めて人間関係を築かなければ情報がうまく得られない。 <交換・派遣留学>

### 15. 留学費用

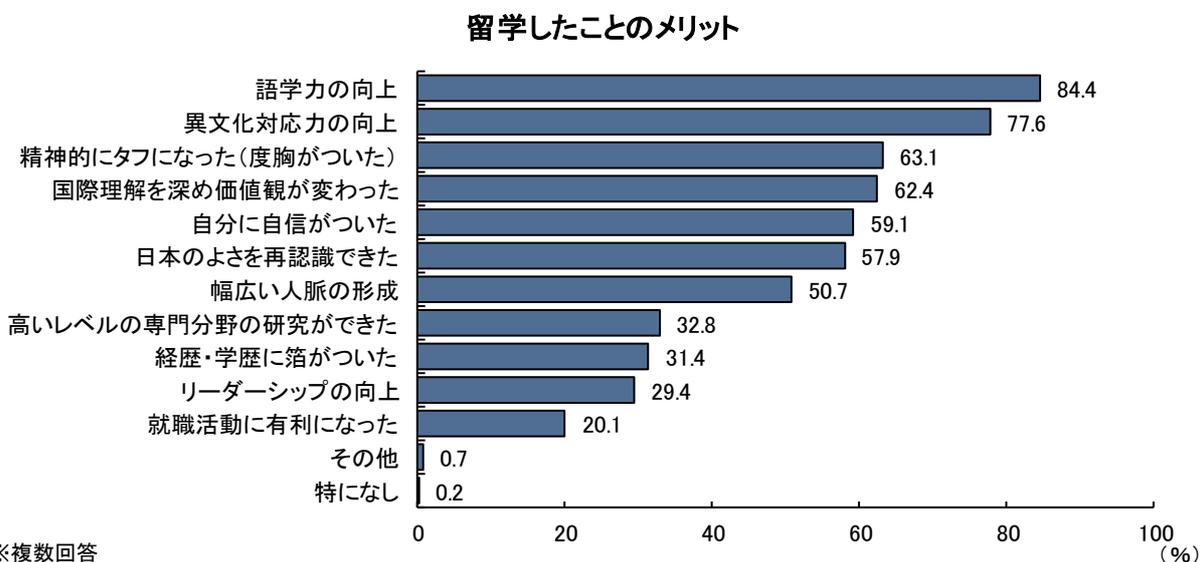
留学をする上で大きな不安要素である費用について、実際にかかった額と、そのうち家族が負担した額について尋ねた。正規留学生の費用の平均総額は1,086.3万円で、留学期間が比較的短い交換・派遣留学生(203.8万円)の5倍以上に上る。また、留学形態に関わらず費用の多くを家族に頼っており、正規留学生で8割近く、交換留学生で7割近くを家族が負担している。

留学でかかった(かかる予定の)費用



## 16. 留学をした感想

留学全般についての感想を尋ねた。「大変良かった」が8割近くに上り（76.2%）、「良かった」（20.8%）を合わせると97.0%で、満足度は極めて高い。留学の成果としては、「語学力の向上」（84.4%）、「異文化対応力の向上」（77.6%）、「精神的にタフになった」（63.1%）、「国際理解を深め価値観が変わった」（62.4%）など、異なる言語・文化・生活への理解や対応力が上位に挙げられた。これらの能力は、将来グローバル人材としての活躍を期待されるであろう留学生にとって、大きなアドバンテージになるだろう。



### ■留学によるキャリア観への影響

- 今までは一つの業界一つの会社に就職することしか考えていなかったが、留学をしたことで視野が広がり、多数の業界や仕事に興味を持つことができました。 <正規留学>
- 大学で勉強したことを活かす仕事に就きたいという考えが、留学前より高くなった。 <正規留学>
- グローバル展開している企業に重きを置くようになり、将来自分が外国で働ける可能性がある企業を探している。 <交換・派遣留学>
- 信頼できる仲間がそばにいてくれたおかげで、語学力を伸ばすことができました。就職先でも、信頼できる仲間とともに目標を達成できるような会社がいいと強く思いました。 <交換・派遣留学>
- 今回留学先で一人暮らしを経験し、他人に頼りきらずに生活をするバイタリティーを手に入れたため、転勤先でも生き抜く自信が高まった。 <交換・派遣留学>
- 海外展開する会社を視野に入れるようになったが、日本の良さも再確認したため、日本を拠点として働きたいと思った。 <交換・派遣留学>
- 留学を通して日本に誇りが持てたからこそ、日本人として海外に貢献できる仕事がしたいと思えるようになりました。 <交換・派遣留学>
- 留学前は大手志向が強かったが、海外学生の考え方などを知り、自分に合った所ややりたい事が実現できるかを重視すべきという考えに変わり、今は幅広い企業に応募している。 <正規留学>